

令和5年度奈良県公立学校優秀教職員被表彰者名簿

- 1 推薦件数 7件【内訳 小学校4件、県立学校3件】
 2 選考結果 7件を表彰
 3 被表彰者名簿

番号	校種	分野	地教委	学校名	氏名	性別	年齢	主たる担当	推薦の具体的事由
1	小学校	⑨学校教育	奈良市	六条小学校	おおた きよみ 大田 清美	女	44	第2学年担任	授業力を核とした教師集団の指導力向上を目指して ～若手教員との協働的な「単元作り」を通して～
2		⑧学校運営	生駒市	俵口小学校	よした まさし 吉田 正志	男	35	第3学年担任 教務主任	ICTの効果的な活用を通じた学校運営の改善について
3		⑤特別支援教育	葛城市	新庄北小学校	たけつな ゆみ 竹綱 裕美	女	48	通級指導担当	特別支援教育コーディネーターや通級担当者の立場からの、様々な背景をもつ児童への多様なニーズに応じた包括的な支援
4	県立学校	⑥地域との連携・協働	中部	王寺工業高等学校	いのもとひさし 井 尚志	男	48	機械工学科長	産業界等との協働により、深い学びの実現及びキャリア教育推進につなげる
5		④特別活動や部活動等の指導	北部	添上高等学校	たにおく もとや 谷奥 元弥	男	39	2年担任 生徒指導部(副部長)	陸上競技の指導を通じた生徒の育成について ～主体性を育み練習の質を向上させるPDCAサイクルの構築～
6		⑦ユネスコ活動や国際交流等	北部	国際中学校 国際高等学校	イーエスディーブ ESD部 代表 ミズモト ヒロユキ 水本 祐之	男	48	中学1年担任 ESD部(部長)	ESD推進のためのホールスクールアプローチについて
7	若手・小学校	①学習指導	葛城市	新庄小学校	あたらし なおき 新子 直希	男	27	第6学年担任 保健体育主任	前のめりになって思考し、自ら学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びを実現するジグソー法を通して～

*年齢は令和6年4月1日現在

4 今後の予定

- ・表彰式はなし
- ・令和5年度中に優秀教職員実践事例集を県教育委員会のホームページ上に掲載

令和5年度
奈良県公立学校優秀教職員
表彰候補者
事例概要

1. 大田 清美(六条小学校)	授業力を核とした教師集団の指導力向上を目指して ～若手教員との協働的な「単元作り」を通して～
2. 吉田 正志(俵口小学校)	ICTの効果的な活用を通じた学校運営の改善について
3. 竹綱 裕美(新庄北小学校)	特別支援教育コーディネーターや通級担当者の立場からの、 様々な背景をもつ児童への多様なニーズに応じた包括的な支援
4. 井 尚志(王寺工業高等学校)	産業界等との協働により、深い学びの実現及びキャリア教育推進につなげる
5. 谷奥 元弥(添上高等学校)	陸上競技の指導を通じた生徒の育成について ～主体性を育み練習の質を向上させるPDCAサイクルの構築～
6. ESD部(国際中学校・高等学校)	ESD推進のためのホールスクールアプローチについて
7. 新子 直希(新庄小学校)	前のめりになって思考し、自ら学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びを実現するジグソー法を通して～

令和5年10月

小学校優秀教職員表彰候補者(1)

No.	表彰候補者	分野	事例概要
	<p>おおた きよみ 大田 清美 43歳・女 奈良市立六条小学校 教諭 第2学年担任</p>	<p>⑨ 学校教育</p>	<p>授業力を核とした教師集団の指導力向上を目指して -若手教員との協働的な「単元作り」を通して-</p> <p>本教諭は、社会科指導の研究に真摯に取り組むと共に、研修等で得た知識を若手教員に還元し、適宜具体的なアドバイスを与え、教員の授業力向上に貢献している。校内では自身の授業を若手教員に積極的に公開し、学習意欲を向上させる授業の提案や、的確な保護者対応について、若手教員の相談にのり、教員集団としての指導力向上を目指して協働的に指導方法の改善に取り組んでいる。</p> <p>また、家庭的に課題を抱える児童について、学習意欲を高めるための様々な指導工夫を行っている。グループワークや調べ学習、タブレットの活用はもちろんのこと、地元企業が開発した知育玩具を活用した授業等を実施している。授業改善が児童の学習意欲を高め、強いては学習規律や生活規律を高めることにつながるという信念をもって取り組んでいる。</p> <p>初任から奈良県小学校社会科教育研究会に所属し、市や県、近畿大会、全国大会で研究実践の発表を行った。</p>
2	<p>よした まさし 吉田 正志 34歳・男 生駒市立 俵口小学校 教諭 第3学年担任 教務主任</p>	<p>⑧ 学校運営</p>	<p>ICTの効果的な活用を通じた学校運営の改善について</p> <p>令和2年度から令和4年度まで、教務部の副担当として、児童一人一台タブレット端末及び県域校務支援システムの活用促進に携わり、令和5年度からは教務主任として校務のプロジェクト化、勤務校ポータルサイトの開設、Google Workspace for Education環境下におけるICT活用推進等を主導、ロイロノートを効果的に活用し、学年や学級を中心とする学習活動を持続的に活性化させた。</p> <p>また、Google Workspace for Education環境の活用促進によって、会議のペーパーレス化、会議時間の短縮、情報共有や案件修正の迅速化等を実現し、児童の居所に関する情報や各教室での学習内容等、日々の活動推進に必要な事柄をリアルタイムに近い形で他教室や職員室と共有できる仕組みを構築した。</p> <p>上記の取組により、児童の学習意欲向上にも大きく寄与しており、誠実かつ確かな対応で、保護者や地域の方々からの信望も厚く、様々な形態での情報発信が、学校・学年・学級運営に対する信頼の構築維持につながっている。</p>

小学校優秀教職員表彰候補者(2)

No.	表彰候補者	分野	事例概要
3	<p>たけつな ひろみ 竹網 裕美</p> <p>47歳・女 葛城市立 新庄北小学校 教諭 通級指導担当</p>	<p>⑤ 特別 支援 教育</p>	<p>特別支援教育コーディネーターや通級担当者の立場からの、様々な背景をもつ児童への多様なニーズに応じた包括的な支援</p> <p>本教諭は、通級指導担当として、児童の指導に当たっている。</p> <p>児童が抱える困難の要因を明らかにするとともに、構造化された学習内容を設定し、模範や教具を示しながら児童に応じた力を身に付けさせるために、課題分析・学習内容の精選・指導法の提示等、常に実践研究を進めている。</p> <p>特に、スパイラル学習、タブレット学習、運動遊び、SST、ICT活用等を駆使し、在籍学級担任との連携を図りながら、児童が意欲的に取り組むことのできる場づくりを意識しているため、利用児童が通級教室での学びを心待ちにしている状況である。</p> <p>また、言語聴覚士の助言から、吃音児童が参加しやすい国語授業の実践や、言語発達検査を利用した漢字学習の効率化、課題克服に合わせた教材開発・提供による授業のUD化・教職員への助言やガイダンス、教職員向け通級通信発行等、専門的な知識を基にした手立てはインクルーシブ教育の啓発にも大きく貢献している。</p> <p>令和5年度からは市内小学校を巡回指導することで、在籍学校や保護者との連携をさらに強化し、指導支援検討や教材提供、関係機関や資料の案内もより一層充実させている。</p> <p>LD学会や研修会でも日々研鑽を積み、研究実践の発表や寄稿の他、研修会の講師も務めている。</p>

県立学校優秀教職員表彰候補者(1)

No.	表彰候補者	分野	事例概要
4	<p>いのもと ひさし 井 尚志</p> <p>47歳・男 奈良県立王寺工業高等学校 機械工学科長</p>	⑥ 地域との連携・協働	<p>産業界等との協働により、深い学びの実現及びキャリア教育推進につなげる</p> <p>高等学校が産業界等と協働で生徒の深い学びにつなげる事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）」（以下、同事業）において、候補者は同事業等の推進のために発足した王エプロジェクト委員の中心人物として同事業の事業特例校（プロフェッショナル型）指定に大きく貢献した。また、平成29年に締結した奈良県とDMG森精機の包括連携協定の一環として、実習等に最新の工作機械を導入し活用することで、生徒が最新の工作機械の使用や対話型のプログラミング入力に抵抗なく取り組むことが出来るようになり、その成果として、令和3年度には、第31回全国産業教育フェアへの出品につなげることができ、さらに県内企業との連携を推進し、生徒が企業に接する機会を増やすことで、生徒の深い学びの実現及び、キャリア教育を推進することができた。この間、生徒のスキルも向上し、高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門では、平成29年度～令和4年度まで本校生徒が連続して奈良大会にて優勝し、近畿大会に出場を果たしている。また、金沢工業大学と連携し、教授を招き、主体的・対話的な深い学びの実現につながる「課題解決型学習や指導と評価の一体化」について研修を実施した。課題研究における観点別評価の方法等教員の授業改善につながる重要な研修になり、同事業におけるカリキュラム開発の一助となった。現在はデュアルシステムを中心に地域の企業との連携で生徒の学びにつなげているが、今後は探究学習に発展させたい。地域の課題を生徒自らが発見し、それを生徒の知識や技術を使うことで解決できる、課題解決型学習（PBL）につなげられたらと考えている。</p>
5	<p>たにおく もとや 谷 元弥</p> <p>38歳・男 奈良県立添上高等学校 教諭（保健体育科） 2年担任 生徒指導部（副部長）</p>	④ 特別活動や部活動等の指導	<p>陸上競技の指導を通じた生徒の育成について ～主体性を育み練習の質を向上させるPDCAサイクルの構築～</p> <p>公立高校でありながら強豪校として全国に知られている陸上競技部顧問として投てきパートを指導している。長時間の練習に頼る指導ではなく、以下のPDCAサイクルを活用した指導を行っている。</p> <p>1 目標設定ノート（Plan） 長期目標（3年間の最終目標）、中期目標（月ごとに3つの目標を立て、具体的な行動計画を作成）、短期目標（日々の目標と気付の記録）を設定する。</p> <p>2 トレーニング（Do） 目標設定ノートを常に確認し練習を進める。練習では、常に試合で力を発揮することと、意味ある失敗を重ねることを意識させる。</p> <p>3 反省ノート（Check） 目標設定ノートで立てた目標と連動し、日々の練習内容・成果・反省を記録させる。</p> <p>4 試合（Action） 試合2日前から試合当日の計画表（結果目標を含む）を完成させる。反省を次に繋げるため試合の翌日は練習を行うことで生徒との対話を重視する。 生徒の主体性を育むことが練習の質の向上にも繋がり、1日の練習時間を短縮しながら、U18陸上競技大会、全国高校総体、国民体育大会で優勝など成果を残している。 生徒の主体性を育むためにノート等を活用しているが、一人一人の適性を理解し、生徒と向き合い対話することで、信頼関係を構築し、生徒が課題に対して主体的に気付くよう導いている。生徒が設定した目標に責任を持たせ、その解決に向けて生徒と共にコツコツと取り組む姿勢は、生徒の主体性、思考力、判断力を大きく成長させている。</p>

優秀教職員表彰候補団体

No.	表彰候補者	分野	事例概要
6	<p>イーエスディーブ ESD部</p> <p>代表 みずもと ひろゆき 水本 祐之</p> <p>47歳・男 奈良県立国際中学校 奈良県立国際高等学校 教諭（理科） 中学1年担任 ESD部（部長）</p>	<p>⑦ ユネスコ活動や国際交流等</p>	<p>ESD推進のためのホールスクールアプローチについて</p> <p>ESDとは「持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人の育成を目指した教育」のことを言うが、国際中学校・高等学校では、校務分掌としてESD部を設置している。</p> <p>ESD部では、スクールミッションである国際社会の平和と発展に貢献できる生徒を育成するため、ホールスクールでのESD推進を大きな目標として掲げ、取り組んでいる。</p> <p>1. 新たなカリキュラム作成</p> <p>①学校設定科目「グローバル探究」 ゼミ毎に探究活動を行い、国内外の高校生が持続可能な社会に向けて話し合う「高校生国際会議」を本校生徒が主体となり開催した。</p> <p>②学校設定科目「世界の言語」 多様な言語や文化との出会いを大切にするため、1年生全員が5か国語を学ぶ日本初のカリキュラムを作成した。2年生では自分が学ぶ言語を使用する国の高校生とオンラインや対面での交流を行った。</p> <p>2. 校内外のネットワークづくりの取組</p> <p>①受け入れた留学生による地域住民向けの異文化理解講座 ②タイ教職員招へいプログラムによる交流 ③コミュニケーション力育成のための英語によるワークショップ ④国際教養大学でのイングリッシュビレッジ ⑤ICTの効果的な活用研究 ⑥多言語の書籍展示やビブリオバトル ⑦ユネスコスクール・キャンディデート校承認</p> <p>等が挙げられる。これらの取組は県内でも先進的であり、探究学習等で一つのモデルとなるものである。</p> <p>ESDを推進し持続可能な活動を行うためには、学校全体への広がりや教員自身の変容が大切である。ESD部ではホールスクールアプローチの実現を目指し、活動計画や教員研修計画を作成し、全教職員で取組を進めている。</p>

小学校若手教職員等奨励賞候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
7	<p>あたらし なおき 新子 直希</p> <p>26歳・男 葛城市立新庄小学 校 教諭 第6学年担任 保健体育主任</p>	<p>①学 習 指 導</p>	<p>前のめりになって思考し、自ら学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びを実現するジグソー法を通して～</p> <p>ジグソー法とは、テーマや課題について役割分担をして、調べ学習を行い、自分が調べた内容を伝えていくもので、対話から学ぶ授業の手法である。</p> <p>これは、協働的な学びを深める時に取り上げられるが、本実践は、その利点を生かしつつ、個別最適な学びをも実現するジグソー法を見出し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指したものである。</p> <p>本教諭は、これまでに高学年を受け持ち、今年度も6年生を担当している。その中で、算数科を中心にこの学習形態を取り入れ、児童が自ら課題を発見し仲間と協働しながら課題解決に向かっていく力を向上させてきた。</p> <p>具体的な実践の1つに、「小学校ソフトボール全国大会の奈良県代表選手を選考する」という場面を設定した実践がある。まずは児童にとって問題解決を図る必然性をもたせ、課題解決の過程では代表候補者選手3名の記録を「平均」「最大最小、未満以上」「グラフ」の観点で考察し、代表1名を選考するというものである。本来のジグソー法は、与えられた観点で考察する形がとられるが、本実践においては、考察の観点を児童に自己決定をさせるというものである。より主体的に、学んだ内容を生かした課題解決に挑ませようと考えた実践となっている。</p>